

令和2年度 第3回豊田市商業振興委員会会議録

【日 時】 令和2年10月27日（火） 午後2時～午後3時

【場 所】 豊田市役所南庁舎52会議室

【出席者】 <委員>

脇田 弘久〔愛知学院大学商学部 教授〕
井口 貴視〔豊田信用金庫 中小企業診断士〕
松永 郁也〔豊田商工会議所 常議員〕
河原 郁子〔とよた下町おかみさん会 平成30年度会長〕
首藤 政俊〔市民公募〕
杉山 裕貴〔市民公募〕
新田 都子〔高岡地域消費者グループ 代表〕

(計7名)

<事務局>

西脇 委千弘〔豊田市産業部部長〕
柴田 徹哉〔豊田市産業部商工振興室〕
成瀬 剛史〔豊田市産業部商業観光課課長〕
吉野 佑美〔豊田市産業部商業観光課担当長〕
鳥山 湖〔豊田市産業部商業観光課主事〕

【傍聴者】 なし

【次第】

- 1 産業部長あいさつ
- 2 本日の審議スケジュール等について
- 3 委員長あいさつ
- 4 議事
(1) 商業活性化プラン(2021-2024)のパブリックコメント案について
- 5 その他
令和2年度 商業振興委員会開催予定について

【会議録（要約）】

4 議事

(1) 商業活性化プラン（2021-2024）のパブリックコメント案について
事務局から説明を受け、委員から意見を聴取した。

委員

52 頁で、クラウドファンディング事業について記載があるとともに、「見本市出展の支援」とある。販売機会の支援は他にもあるのか。

事務局

産業労働課が来年更新を予定している産業振興プランの中に、「見本市出展の支援」がある。

事務局

従来は製造業に限ったメニューであったが、来年度からは、商業にも間口を広げて行えるように調整を行っている。

委員

創業者数を増やすことに関しては、53 頁からの「新たな担い手人材の育成・定着」の内容が中心だと思う。

最近の創業相談についての情報を共有すると、コロナに関する相談を受けることが圧倒的に多いものの、上半期は、創業に関する相談件数が減ることはなく、コロナの状況下で創業させて良いのかという悩みを持っている。そのような中で、創業の機運醸成や補助金による支援も大事であるが、創業後の販路開拓や商品設計を手伝えるような支援が重要と考えるが、プランに盛り込まれているのか。

今回のプランで着目されているのは、相談件数ではなく創業者数であり、実際に創業を開始している人に重点が置かれているため、もし創業して失敗してしまった場合、助けに入ることが難しいのではないかと。創業前の相談の段階であれば、場合によっては創業を引き留め、失敗を回避することも可能であると思っている。

事務局

現時点では、補助金による創業支援はプランに盛り込んでいない。ワンストップ創業支援窓口の拡充等、相談に乗りながら創業・経営を導いていくことを目指している。ただし、具体的には検討の段階である。補助金の切れ目が事業の切れ目とならないように、相談・伴走型でやっていきたいと考えている。

委員

消費者購買の市外流出の抑制について、最近では、ららぽーと愛知東郷が近隣にできた。専門店が何百と入っていて、百貨店が必要なくなってしまう理由を感じるとともに、市外流出するのは必然と思った。一方、豊田市は、大きな商業施設を作らないという考えで、長年地域密着でやってきている。しかし、豊田市へ買い物に来てもらえるような魅力的な商業施設が必要なように思えてきた。具体的な案を示すことは出来ないが、車社会において、郊外型の大規模店舗が今後は必要になると思っている。仮に、大型店舗ができるのであれば、近隣の商店との兼ね合い、バランスを取る必要がある。個々の商店の魅力向上も大事であるが、同時に、集客を見込める施設も考えていく必要がある。

商店街支援に携わる立場として、実際に大型店舗ができると困る部分はあるが、商店街として対応できるような支援施策があればよい。プランにどこまで含められるかはわからないが、上記の観点を踏まえて、市外流出についても考えて頂けると有難い。

委員

意見は3つある。まず、新規創業については、法人税・登記にかかる費用を減らす支援もよいのではないか。知り合いが福岡市で上記支援を受けていた。福岡市は、特に若手の新規創業者に対する支援の先進事例であり、参考になるのではないかと考えている。

2点目は、物件マッチングについてである。事例として、名古屋で「さかさま不動産」がある。部屋等を借りたい人が物件を探すのではなく、物件を貸す側が「こんな人に貸したい。」と条件等を提示し、物件と人をマッチングするものである。豊田市内を歩いていて、空き物件を見つける度に、「さかさま不動産」のようなことをやると、新規創業の環境を整えやすいと思っていた。

3点目は、ピッチイベントの開催である。1～2分で新規事業についての構想等をプレゼンし、出資を募るというものである。最近、大手証券会社やコンサルティング会社で実施されているのを目にする。若者がやりたいことや思いを伝えられる機会を作り、その若者のアイデアにお金をつけてあげることが大事だ

と思う。クラウドファンディングも有効ではあるが、成功するポイントが、いかにSNS上に友人・知人がいるかになってしまう。もしくは、友人・知人がいない場合、よほど面白いサービスやモノでなければならぬというハードルの高さがある。そのことを考えると、市主催あるいは協賛・協力のもとでのピッチイベント開催が必要であると考えます。

委員

ららぽーと愛知東郷へ行ってきた。現在は、目新しいため話題になっているが、店舗については、同じような店が軒を連ねているという印象を持った。豊田市では、松坂屋が閉店してしまうことから、「名鉄が何か作ってくれないかな。」といった期待の声も、周りから聞こえてきている。コロナの影響はあるとはいえ、直接見て買いたい人や、店員等人と接して買いたい人のためにも、駅前に商業施設があるとよいと思った。また、コロナ禍ということもあり、インターネットを見ていた際に、海産物のネットショッピングで、送料が全額補助されるという制度を知った。こういった補助は、売る側も買う側も双方が得をする。豊田市でも、そのような支援が必要ではないか。

委員

豊田市駅周辺を歩いていると、閑散としている店と、多くの人が集まる店との二極化が進んでいるように感じる。経営者から話を聞いていると、クラスターが起きないようにするために、換気を何とかしたいという声をよく聞く。そもそも、換気対策をしたり、設備を整えたりするにあたって、どこに何を頼めばいいかが分からない経営者が多い。トヨタ自動車も含め、換気に関する技術や知見を持つ企業・業者と飲食店のマッチングができるかよいのではないかと。市が主導し、適切な相談先へ紹介してあげるとよいのではないかと。

委員

最近、友人が出張サービス事業を始め、コロナ禍でもとても仕事が忙しいと聞いた。コロナに限らず、今後高齢者が増加すると、外へ出かけにくい人が増え、出張サービスに対するニーズも高まると思う。店舗支援だけでなく、出張サービスの創業に対する支援も将来的には考えてほしい。

委員

来年 4 月に、鞍ヶ池にキャンプ場ができると聞いている。駅からアクセスのよい毘森公園にも出来れば良いと思っている。公園緑地つかう課やつくる課とも連携して頂けると有難いと思う。

委員

四郷にマックスバリュ等が新しく出来て、地産地消として豊田市の産品も置かれている。しかし、うまく売ることは難しく、売れる商品として仕上げる必要があるのではないかと。ただ、陳列するだけにならないよう、支援・指導も必要である。地産地消品をスーパー等に置いてもらうこと自体は非常に良いと思うため、上手に売れるようアドバイスができる体制があるとよい。

委員

商業と ICT の連携については、現在の国の施策でも扱われているトピックであり、本プランの中でも散りばめられている。本プランにおいて、特にデジタル活用が色濃く出ている箇所は、どのあたりになるか。また、本プランに盛り込まなくとも、今後もこのトレンドに着目して頂けると有難い。

事務局

59 頁の上段が、IT 関係の支援について記載している箇所となっている。

委員

今後の ICT 関係の展開や具体的な方針等を教えていただきたい。プランに盛り込まずとも、豊田市としてどのようなスタンスを取るのか、今後検討頂きたい。

事務局

現在の商業活性化プランは、「豊田市がんばる商店街応援プラン」という商店街振興の流れを汲んでおり、次期プランは商店街振興に加え、個店支援を充実させる内容としている。こうした方向性、特徴を持つプランを推進してきたため、ICT に特化した方針等を明確にしていらないが、商業振興において重要な取組であるため、施策の 1 つとして、必要に応じて盛り込んでいきたいと考えている。

委員

プランそのものはよいと思っている。

その他の意見として、豊田市には、商店街振興組合等が 10 数か所あったが、現在は片手より少ない状況となっている。個人的に、豊田市は他の市より、商店街に対する支援・補助が手厚いと思っている。しかし、商店街に入っていないなくても、個々の店舗に対する支援があれば、商店街は必要ないと考える人が増えることも理解できる。地域活性化のためには、商店街のような店の集まり・コミュニティ維持が出来て、かつ、地域の人もその商店街を利用することにより生活を維持できることが理想的ではあるが、昨今の商店街に加入しない店舗の増加という風潮を考えると、商店街という組織に入らなければ支援を受けられないことへの、ジレンマも発生しているように感じている。